

平成 30 年度 東京都内湾水生生物調査 2 月稚魚調査 速報

●実施状況

平成 31 年 2 月 5 日に稚魚調査を実施した。天気は曇りで、気温 7.4～8.5℃、調査地点の風は弱く、海は静穏であった。調査当日は大潮で、干潮が 11 時 31 分、満潮が 16 時 58 分であった(気象庁のデータ)。

魚類の種類数は 12 月調査と同様に少なかったものの、全調査地点においてアユの仔稚魚が確認された。

2019/2/5	城南大橋	お台場海浜公園	葛西人工渚
作業時刻	10:44-11:40	09:30-10:18	12:23-13:41
水温(℃)	10.9	9.9	10.3
塩分(-)	25.9	30.1	24.1
透視度(cm)	60	66	44
DO(mg/L)	9.6	11.3	9.8
DO飽和度(%)	101.9	121.3	102.0
波浪(m)	0.1	0.1	0.1
pH(-)	8.2	8.5	8.3
水の臭気	下水臭(弱)	無臭	無臭
備考	下げ潮時から最干時に調査を行った。	下げ潮時に調査を行った。渚では、5 名程の観光客がみられた。	上げ潮時に調査を行った。汀線近くの海上では、多くのカモ類が休んでいた。

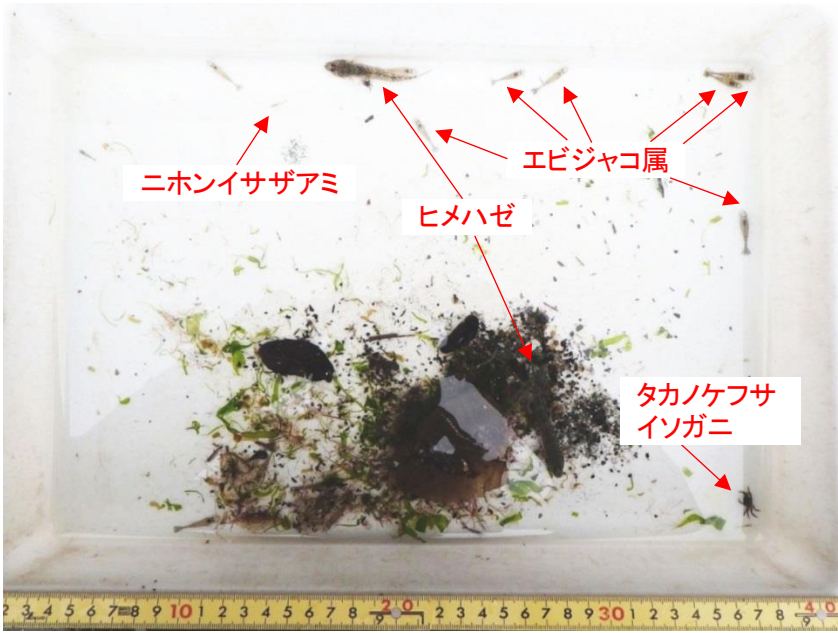
●主な出現種等 (速報のため、種名などは未確定)

主な出現種等	城南大橋	お台場海浜公園	葛西人工渚
魚種 (多い順 ^注)	アユ(+)	アユ(r)	アユ(+)
	ヒメハゼ(+)	ボラ(r)	エドハゼ(r)
		ヒメハゼ(r)	
魚類以外	ニホンイサザアミ(+) エビジャコ属(+)	ニホンイサザアミ(+) ニホンドロソコエビ(r)	ニホンイサザアミ(m) クロイサザアミ(m)
備考	他にタカノケフサイソガニ、アキアミが採取された。	他に動物プランクトン(カイアシ類)が多く採取された。	他にシラタエビ、エビジャコ属、タカノケフサイソガニが採取された。

注) 表中の () 内の記号はだまかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100~1000 個体未満、c:20~100 個体未満、+:5~20 個体未満、r:5 個体未満

城南大橋 採取試料



調査地点の様子



調査の様子

城南大橋西詰めにある干潟。北側には東京港野鳥公園がある。

●主な出現種等

※写真のスケール 1 目盛:1mm

アユ



川を遡上する前の稚魚で、海で生活する間は体の透明感が強い。産卵は夏から秋に河川中流の砂礫底で行われ、孵化後、卵黄を吸収しながら海に流下する。干潟域は、河川を遡上する前に利用している。

ヒメハゼ



全長は 9cm 程になる。内湾や河口域の干潟域の砂底や砂泥底に生息する。危険を察知すると砂に潜る習性があり、体の模様も砂や砂利の色にそっくりである。小型甲殻類や二枚貝を食べる。

タカノケフサイソガニ



甲幅 3~4cm 程になる。日本全国に分布し、河口の転石の下、カキ殻の中、護岸の隙間などに生息する。オスのハサミの付け根に毛の房がある。今回採取された個体は、甲幅 14mm 程の稚ガニ。

ミツオビクーマ



小型の甲殻類で、体長は 7mm 程。長い尾節が特徴である。日中は砂泥中に潜っているが、夜は海面近くに浮上して餌をとる。

アキアミ



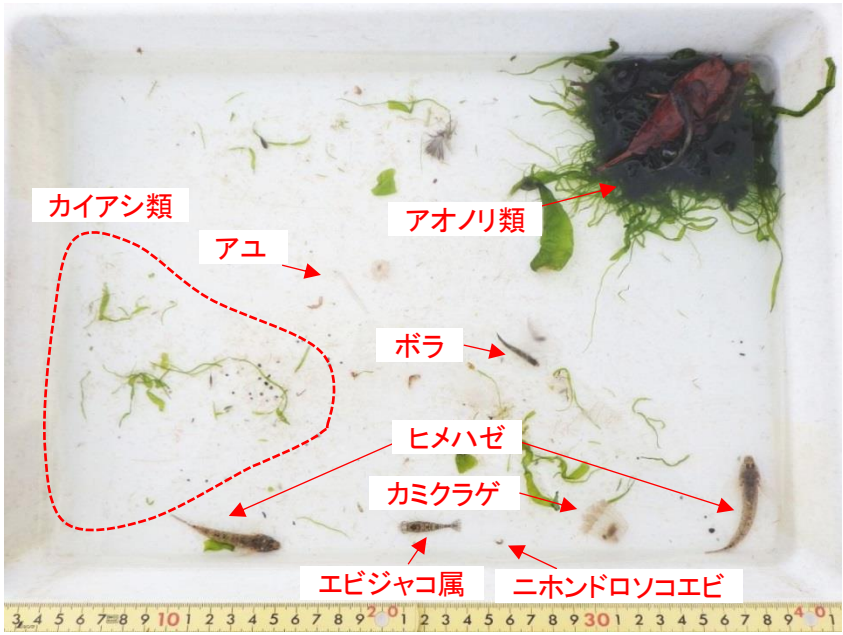
内湾に生息するサクラエビの仲間。体長は 4cm 程。触角が赤いことから、新潟県では「あかひげ」と呼ばれる。

ショウジョウケリ



地引網に入網した細い糸状の紅藻類。東京湾では冬から春にかけてみられ、大きさは 20cm 程度になる。色は暗赤色で、名前は其の色を猩々(しょうじょう:赤い体をした伝説上の動物)の毛に見立てたもの。

お台場海浜公園 採取試料



調査地点の様子



調査の様子

水際数メートルで急に深くなる人工の渚。レインボーブリッジのたもとにある。

●主な出現種等

※写真のスケール 1 目盛:1mm



体長 50cm 程まで成長する。東京湾では、内湾の干潟域では最も個体数の多い遊泳魚であり、早春から夏にかけて滞り、徐々に成長する。



小型の甲殻類で、ヨコエビと近縁。海藻やアマモなどにくっついて生活しており、藻場を利用する幼魚の重要な餌となっている。



体長 1~2cm 程になるヨコエビの仲間。泥底や砂泥底の表面近くにトンネルを掘って生活する。東京湾では最も普通に見られるヨコエビの一つ。



海洋に非常に多く生息する動物プランクトンで、体長は大きな個体でも 2mm 程。半透明な体をしており、仔稚魚の餌として非常に重要。脚が船の櫂(かい)のような形をしているためこう呼ばれている。



アオサの仲間(緑藻類)。東京湾湾奥の河口域の汽水域では、スジアオノリ、ボウアオノリ、ヒラアオノリ等が生育する。お台場海浜公園では、秋季~春季に目立つようになる。

葛西人工渚(東なぎさ) 採取試料



東京湾奥にある広大な人工干潟。野鳥等保護区域のため、一般の立ち入りが禁止されている。

●主な出現種等

※写真のスケール 1 目盛:1mm



*解説は城南大橋を参照。城南大橋で確認された個体は 3cm 程であったが、葛西人工渚では 5~6cm 程の大きな個体が確認された。



湾奥の干潟域に生息し、アナジャコの巣穴を隠れ家として利用している。小型の甲殻類を捕食する。環境省のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に選定されている。



内湾の砂泥底に生息し、普段は砂にごく浅く潜って隠れている。環境の変化に敏感に反応し、体色を変化させる。魚類の稚魚などを捕食することが知られている。



汽水域に生息するアミの仲間(エビの仲間ではない)。ニホンイサザアミは体長 10mm 程、クロイサザアミは体長 15mm 程になる。クロイサザアミは、腹部に黒色斑があり、ニホンイサザアミに比べ黒っぽい体色をしている。河口域で春に大量発生し、魚類等の餌として重要である。



スジエビ類よりも大型で、体長 7cm 程になる。汽水域に生息しており、触角が青いことで他種と簡単に見分けられる。